

ペインクリニック治療指針 改訂第4版について

治療指針第4版では、第3版の内容を基本的に引き継ぎ、2011年に行った学会員を対象にした第3版の内容に対するアンケート調査の結果について委員会で検討を行い、さらに医育機関、総合病院および診療所において、ペインクリニック診療に長年従事しておられる経験豊かな医師からの御意見を参考にして改訂を行った。まず、最近、臨床使用可能となった新しい薬物の増加を反映し、第3版で見送った薬物療法を大項目として加えた。そして各項目の内容を最近の知見を加えて修正を行った。また、各項目の参考文献にはなるべく最新のものを引用し、これまで参考文献の記載がなかった項目にも参考文献を記載した。

参考文献に関しては、第3版と同様に、掲載する論文を選ぶためのデータベースとして、日本語論文は医学中央雑誌、英語論文はMEDLINEに収録された国内外論文とした。検索対象は2012年までに発表された論文の中から、基本的になるべく新しい論文から選択する方針であったが、有用な文献は過去に遡っての引用とした。個々の疾患に従って、キーワード（神経ブロックなど）を決めて検索式を作成し、関連する論文を検索した。検索された文献について研究デザインやエビデンス（EBM）のレベル（勧告の強さ）の観点から治療指針の作成に採用するかどうかを決定した。

論文の採用に当たり、ランダム化比較試験（randomized controlled trial：RCT）を前提条件としたが、これに当たらない論文であっても内容的に価値が高い論文は引用に値するものとした。また、薬物療法の章に関しては、論文の分類は一部を除き採用としなかった。

論文の分類

- G1：RCT（ランダム化比較試験）があり有効なもの
- G2：中等度の有効性があるもの
- G3：有効性がはっきりしない論文
- G4：症例報告など
- G5：権威者の論文